

環境報告書2017 環境マネジメントシステムの概要 資料

平成28年度 部局独自の取り組み

環境目標の達成度評価基準



達成率100%以上



達成率80%以上



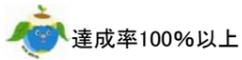
達成率80%未満

方針	目的	目標	具体的な取り組み	達成度 ( )内は実績値		
教育	環境マインドの育成	環境教育システムの構築	評価: 教養教育機構、人文学部、教育学部、生物資源学部では部門の目標を設定して、学際的環境教育システムの構築が行われ充実に繋げる取り組みを設定して、すべて達成しています。			
			根拠	教養教育機構	教養統合科目において、環境学(環境内部監査員養成)を開講する(2月14~17日に集中で実施)。	(1回)
			人文学部	カリキュラムにおいて、環境関連の授業を実施	(1回)	
			教育学部	環境教育関連の授業を実施する。	(4回)	
			生物資源学研究科	研究科教員関連環境教育の実績・予定確認と、記録の作成	(2回)	
	環境教育カリキュラムの支援	学内外の環境教育プロジェクトへの支援と連携	評価: 教育学部、工学研究科、生物資源学研究科では部門の目標を設定して、「学内及び学外の環境教育プロジェクトへの支援と連携」として取り組みを設定して、すべて達成しています。			
			根拠	教育学部	全学に加えて、学部独自のキャンパススクリーンを実施し、学生の環境マインドの育成を促す。	(2回)
			工学研究科	国際環境教育研究センターの委員会審議内容を、工学研究科教授会で報告、情報を共有し、支援と連携を促進する。	(11回)	
		生物資源学研究科	研究科教員関連の環境インターンシップ科目の確認と、記録の作成	(2回)		
		本研究科教育において環境教育を実施する。	評価: 地域イノベーション学研究科では、「学内及び学外の環境教育プロジェクトへの支援と連携」として取り組みを設定して、すべて達成しています。			
根拠	地域イノベーション学研究科	本研究科のカリキュラムの中で環境的側面を重視したバイオイノベーションのあり方を教育する。	(1回)			
研究	大学キャンパスや施設を活用し、自然共生、地球温暖化防止、資源・エネルギー利用等の革新技術の実現化立証に供する。	各部局内実施の環境関連研究の情報集約	評価: 工学研究科、生物資源学部では、部局内の環境研究を普及するための目標を設定して、年間通じて達成しました。			
			根拠	工学研究科	工学研究科内実施の環境関連研究の情報を集約する。	(1回)
			生物資源学研究科	研究科教員関連の環境研究の確認と、記録の作成	(2回)	
		地域イノベーション学研究科で実施されている研究と環境問題との関係を明確にし、研究科内の環境研究意識を推進する。	評価: 地域イノベーション学研究科では、「研究科内の環境研究意識を推進する」取り組みを設定して、すべて達成しました。			
			根拠	地域イノベーション学研究科	研究科内で実施されている研究活動と環境問題(例えば、地球温暖化防止、省エネルギー(従来方法とのエネルギーコストの比較)、ゴミ(廃棄物)の削減、環境意識改革等)との関係を意識付けする。具体的には、研究科で実施されている全ての特別研究について、環境問題との関係について考察し、文書にして明確化する。	(4回)

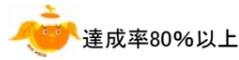
環境報告書2017 環境マネジメントシステムの概要 資料

平成28年度 部局独自の取り組み

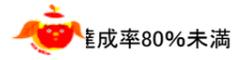
環境目標の達成度評価基準



達成率100%以上



達成率80%以上



達成率80%未満

方針	目的	目標	具体的な取り組み	達成度 ( )内は実績値
<b>社会貢献</b> 3.地域社会と協働の場として三重大学を活用し、環境情報の発信拠点とする。	三重大学独自の環境主軸のUSR規範の検討と確立	USRの基に環境報告書に作成、環境情報発信のICT活用	評価:教育学部、生物資源学部、企画総務部、財務部と環境ISO学生委員会では、各部局における「環境情報の発信」に関する目標への取り組みを設定して、すべて達成しました。	
			教育学部 環境報告書に掲載する環境教育の27年度成果をまとめ、部局担当の国際環境教育センター員に報告する。	(1回)
			生物資源学研究科 環境報告書の環境研究概要欄に関連し、執筆依頼を行い、記事を取りまとめる	(2回)
			根拠 企画総務部 全学ホームページへの環境報告書の掲載(広報室)	(1回)
			財務部 環境報告書作成資料の提供	(1回)
			環境ISO学生委員会 環境ISO学生委員会の取り組みを紹介する記事を作成	(5回)
	キャンパス及びその周辺地域社会と学生とのコミュニケーション強化	地域社会と連携による、環境コミュニケーションの創出	評価:各部局において、「ノーマーカーデーの実施」を継続して取り組みを実施し、すべて達成しました。教育学部では、「キャンパスや周辺の環境を活用し、地域の学校園を対象とした環境学習を実施」、人文学部では、「清掃活動への参加周知」、生物資源学研究科では、「オープンキャンパスにおける、研究科の環境取り組みの紹介」という、独自の取り組みを設定し、すべて達成しました。環境ISO学生委員会では、「町屋海岸再生プロジェクトの実施」と「環境学習の実施」という、独自の取り組みを設定し、すべて達成しました。	
			人文学部 町屋海岸の清掃作業参加を周知する	(3回)
			教育学部 キャンパスや周辺の環境を活用し、地域の学校園を対象とした環境学習を実施	(9回)
			生物資源学研究科 オープンキャンパスにおける、研究科の環境取り組みの紹介やアンケート調査により、環境コミュニケーションの場を作る	(1回)
			教養教育機構 ノーマーカーデーを実施する。	(12回)
			教育学部 ノーマーカーデーの実施	(12回)
			医学系研究科 ノーマーカーデーの実施	(12回)
			生物資源学研究科 ノーマーカーデーの呼びかけを行う	(3回)
			根拠 財務部 ノーマーカーデーの実施	(12回)
			学務部 ノーマーカーデーの実施	(12回)
			企画総務部 ノーマーカーデーの実施(通勤、出張、その他を含む)	(12回)
			保健管理センター ノーマーカーデーの実施	(12回)
			施設部 ノーマーカーデーの実施	(12回)
			環境ISO学生委員会 環境ISO学生委員会主体による、町屋海岸再生プロジェクトの実施	(5回)
環境ISO学生委員会 環境学習(小学生対象)の実施	(10回)			

環境報告書2017 環境マネジメントシステムの概要 資料

平成28年度 部局独自の取り組み

環境目標の達成度評価基準



達成率100%以上



達成率80%以上



達成率80%未満

方針	目的	目標	具体的な取り組み	達成度 ( )内は実績値	
業務運営	エネルギー使用量の合理化	エネルギー使用量の合理化の実施	評価: 財務部と監査チームでは、「エネルギー使用量削減の運用改善テーマ」を設定して、すべて達成しました。 環境ISO学生会では「緑のカーテンの設置による冷房使用量の削減」を設定して、達成しました。 施設部では、「各部局への使用量通知」を設定して、達成しました。		
			財務部	各部局は、エネルギー使用量削減の運用改善テーマを定め、実行(各部局1回) ・クールビズ周知(5月) ・グリーンカーテン ・ウォームビズ周知(12月)	(3回)
			監査チーム	各部局は、エネルギー使用量削減の運用改善テーマを定め、実行(各部局1回) (昼休みの室内消灯、空調機の適正温度設定と間引き運転、OAタップの節電スイッチ使用による省電力化、業務遂行に影響が少ない室内天井の照明管球取り外し等)	(1回)
			環境ISO学生会委員会	緑のカーテンの設置による冷房使用量の削減	(1回)
			施設部	各部局にエネルギー使用量を通知	(4回)
	紙の使用量の削減	紙の適正使用方法の継続と紙使用量の削減、および管理	評価: 環境ISO学生会委員会では、紙の適正使用方法の継続のため「プリンターの印刷枚数を管理する」取り組みを設定して、年間通じて達成しました。		
			根拠 環境ISO学生会委員会	プリンターの印刷枚数カウンターとチェック表の二重チェックによるデータ管理	(12回)
	廃棄物排出量の削減	廃棄物排出時の資源分別手順の確立と学内周知	評価: 財務部では、「分別状況を確認し、記録し、結果を周知」を設定して、達成しました。 環境ISO学生会では「リユースイベントの実施」、および「リユース活動」を設定して、すべて達成しました。		
			財務部	室内のごみの分別状況を確認し、記録し、結果を関係者に周知する。(分別状況の良くない状態の場合は、必ず周知する。良い状態の場合は記録までする)	(12回)
			根拠 環境ISO学生会委員会	環境ISO学生会委員会主体による古本市や家電のリユースイベントの開催	(22回)
環境ISO学生会委員会	学内の落ち葉の堆肥化および学内放置自転車のリユース活動	(10回)			

※具体的な取り組みに対する評価は、国際環境教育研究センターが平成28年度EMS年間実施計画書の実績からまとめた内容です。